

## 別添4

### 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業） 令和6年度 分担研究報告書

難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形（リンパ管種）・  
リンパ管腫症および関連疾患についての研究

分担課題 「血管腫・血管奇形・リンパ管奇形診療ガイドライン改訂版」の普及・啓発

研究分担者氏名 三村秀文  
所属研究機関名 聖マリアンナ医科大学  
職名 放射線診断・IVR 学 主任教授

#### 研究要旨

「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン 2022」が 2022 年度に完成し、その普及・啓発のための同ガイドラインの英文化に際し、前回ガイドラインを取り纏めた経験から助言を行った。

当班での対象疾患の大半は原因不明で、根本的な治療法が確立していない、本領域単独の専門家も少ない。横断的専門家合意の下 小児期、成人の移行期医療を確立し、広く国民に周知し、本分野での学際的発展へ継続させる。

「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン 2022」（第二次改訂）を関連学会の承認のもとに広く国民に普及・啓発すると共に、各学会、団体からのご意見・ご提案を踏まえ疾病及び疾病概念を頒布する。更に研究期間内に第三次改訂を着手する。

#### A. 研究目的

「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン 2022」の普及・啓発を行う。

#### B. 研究方法

同ガイドラインの英文化に際し、前回ガイドラインを取り纏めた経験から助言を行った。

#### C. 研究結果

ガイドラインの英訳に際し、助言を行った。ガイドラインの担当か所は、主に以下の部分であった。

CQ1 「動静脈奇形において治療開始時期の目安は何か？」にて病期の低い症例では治療による QOL の低下を考慮して早期の治療介入を検討すべきとされた。

CQ2 「動静脈奇形の流入血管に対する近位（中枢側）での結紮術・コイル塞栓術は有効か？」では以前同様に治療において近位結紮/塞栓は推奨されな

いとされた。

今回のガイドライン改訂では動静脈奇形に関して特に新しいのは CQ3 「動静脈奇形の塞栓術において血管造影による分類は有用か？」である。Cho/Do 分類ではタイプ I と II が治療の成績がよいとの報告もあるが、十分なエビデンスではなく、血管造影による分類は根治率や治療回数の推定に有用かもしれない。分類の統合や互換を行うことは容易でないが、動静脈の解剖が複雑であるほど治療が難しいと思われるとの結論になった。

CQ4 「顎骨の動静脈奇形の適切な治療は何か？」では顎骨の動静脈奇形は乳歯が抜ける段階で出血がおこる事が多く、治療はエタノールによる硬化療法を含めた血管内塞栓術単独ないし、手術療法との併用が推奨され、手術療法に関しては、血管内塞栓術を併用することにより、より侵襲の低い治療で病変をコントロールできると考えられるとされた。

CQ5 「手指の動静脈奇形の適切な治療は何か？」では手指の動静脈奇形の治療について言及がなされ、塞栓硬化治療では根治は難しく症状緩和を目的にするが合併症に注意すべきであること、また手術では全切除が推奨されるとされた。

#### D. 考察

「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン 2022」が 2022 年度に完成した。ガイドライン英文化は順調に進行し、研究期間内に完成する予定である。

#### E. 結論

「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン 2022」が 2022 年度に完成した。同ガイドラインの英文化に際し、前回ガイドラインを取り纏めた経験から助言を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Wada S, Hamaguchi S, Hashimoto K, Nawata S, Matsuoka S, Mimura H. Selective Angiographic Evaluation in Patients with Simple-Type Pulmonary Arteriovenous Malformations Treated with Vascular Plug. *Cardiovasc Intervent Radiol.* 2024 Aug;47(8):1101-1108.

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

1 特許取得

なし

2 実用新案登録

なし

3 その他

なし

